1. 認知機能検査入院について

現在、日本の高齢化率は世界 1 位であり、2018 年の時点で山口県では 33.1%、全国 3 位となっています。このため、加齢などに伴い認知症や軽度認知障害とよばれる状態の方も増加してきています。一方、その機能変化の原因を詳しく調べることができる医療機関は限られています。また、ご本人やご家族が検査を受けるために頻回に病院に来なければならないことは身体的、精神的、経済的な負担が大きいと思われれます。

このような背景もあり、山口大学医学部附属病院精神科神経科では、脳神経内科、脳神経外科、放射線科、検査部などの協力の下に 3 泊 4 日の短期入院検査を行うプログラムを開設いたしました。事前に新患として外来を受診していただき、最短 3 泊 4 日の入院で認知機能検査、血液検査、脳波検査、頭部 MRI、頭部 SPECT、DAT-scan、脳脊髄液検査などを網羅的に検査できます。また、後日にご本人とご家族、かかりつけ医に検査結果を詳しくお伝えします。

状態を把握することが対応や治療の第一歩になります。ご連絡ください。

診断ならびに治療援助を提供するプログラムです。かかりつけ医のいらっしゃる方が対象となります。原則として治療はかかりつけ医と継続していただくこととなります。

2. 検査入院までの流れ

① 電話で入院前の診察日を決定します

- 1) かかりつけ医と相談して検査入院を行うことを決め、簡単な紹介状を書いてもらう。
(紹介状が無い場合には初診時に選定療養費 5,500 円が発生します)
- 2) 山口大学医学部附属病院精神科神経科外来に電話をする。
(0836-22-2506, 平日午前 9 時 00 分-午後 4 時 30 分)。
- 3) 電話で入院前の診察日(水曜日限定)を決定する(入院・退院希望日もお伺いします)。

② 当科から予診表を送付します

診察時間を短縮するため、事前に予診表を送付しています。記入しておいてください。

③ 予診表、紹介状を持って、受診してください

当日は問診、簡単な神経学的検査、その後に胸部レントゲン、心電図、頭部 CT を行います。
ご本人が受診できないときには、ご家族、関係者の方からお話を聞くだけでも構いません。
診察後に入院に向けて準備するものをご説明します。

④ 検査入院のスケジュール

	検査項目	時間	場所
第1日 (月曜日)	受付、PCR 検査	9:00	C 棟1階 (女性診療外来)
	簡易な診察など	10:00	C 棟3階 精神科外来
	脳波	11:00	C 棟2階 脳波検査室 *各自で昼食を取っていただきます
		12:30	*PCR の結果、陰性の場合入院可能です
	入院	12:30	A 棟7階 病棟
	脳血流シンチ	14:00	B 棟1階 核医学[RI]検査室
第2日 (火曜日)	血液検査	起床時	A 棟 7 階 病棟
	認知機能検査(1)	11:00	A 棟 7 階 病棟
	頭部 MRI (+ MRA)	13:30	A 棟 4 階 10 番 OP 室
第3日 (水曜日)	認知機能検査(2)	9:30	A 棟 7 階 病棟
	DATscan(1)	12:30	B 棟1階 核医学[RI]検査室
	DATscan(2)	15:30	B 棟1階 核医学[RI]検査室
第4日 (木曜日)	髄液検査 + 血液検査	9:30	C 棟 1F 脳神経内科外来
第5日 (金曜日)	退院(例)		

木曜日の夕方には退院できますが、ご家族の迎いの便宜上金曜日の午前中に退院される方が、ほとんどです。いつ退院なさるかは入院初日に最終決定させていただきます。

*徘徊など検査続行が難しいと医師が判断した場合、無理せず退院していただく場合があります。

⑤ 検査結果の説明をします

多くの検査項目があり、各専門家の意見を集約するには時間がかかります。そのため、退院時に全ての検査結果を踏まえて説明することはできません。後日(3~4週間前後で)来院して頂き、説明させていただきます。なお、かかりつけ医には別途、詳細なレポートを郵送させていただきます。

3. 「認知機能検査入院」の内容

1) 診察(再度の問診、神経学的検査など)

深部腱反射(ひざやひじを打鍵器でたたいて反射を見る)など、診察室でできる神経の異常を見る簡単な検査を含みます。

2) 脳波

脳の電気活動を測定します。意識障害やてんかんが無いか確認するための検査です。

3) 脳血流シンチ (頭部 SPECT)

体内に投与した放射性同位体から放出されたガンマ線を検出し、脳の血流を見る検査です。被曝の影響は極めて小さく、有害ではありません。

4) 血液検査

甲状腺機能低下症や各種ビタミン欠乏・微量元素欠乏など、認知機能に影響を与える可能性のある身体の状態を血液から確認します。

5) 認知機能検査

注意、記憶、知覚など認知機能をいくつかのカテゴリーに分けて検査します。

6) MRI、MRA

MRI により脳の形(萎縮があるかどうか)、梗塞、腫瘍などを判断します。CT よりも詳細な情報がわかります。また、MRA により脳血管の状態を確認します。

7) DAT-scan

脳のドパミントランスポータを見る検査です。特に脳の線条体におけるドパミン神経終末の量などが反映されるため、ドパミン神経数の減少などが推測されます。

8) 髄液検査(脳脊髄液検査)

脳はクッションの役目を果たしている脳脊髄液に浮かんでいます。脳脊髄液の中には脳への栄養物質や老廃物など多くの物質が含まれ、これらを調べることで脳の異常を知ることができます。アミロイドβや(リン酸化)タウ蛋白なども測定します。